

ニューオーリンズの経験を活かそう

ハリケーン復興に学ぶ日米の産学官討論会

8年前のハリケーン被害から立ち直ったアメリカ、ニューオーリンズの経験を「震災復興」に活かそうと、21日、日米の産学官の代表者が岩手大学に集まり討論会を開きました。この討論会は、8年前アメリカ南部の都市ニューオーリンズを襲ったハリケーン「カトリーナ」による災害で、復興を支えた人達から学び震災復興に活かそうと岩手大学などが開きました。日米の産学官の代表者は、ディスカッションを行って復興に、何が必要なのかについて、熱心に意見を、交わしていました。(5/21 ニュースエコー)。



宮古発

被災地に音の出る信号機寄贈

IBCのラジソンに寄せられた募金で整備された音の出る信号機が宮古に完成し、記念のセレモニーが行われました。宮古市小山田で行われたセレモニーには宮古警察署と工業者、IBCの関係者が出席。音の出る装置の電源を入れて完成を祝いました。35回目となるIBCのラジソンではおよそ1200万円の募金が寄せられ、新たに四基の音の出る信号機が沿岸被災地に設置されました。これで県内では合わせて108の音の出る信号機がラジソンに寄せられた善意で整備されたこととなります。(5/22 ニュースエコー)



陸前高田発

一本松 27日から復元の修復工事

陸前高田市は工事の一部にミスがあったとしてやり直しが決まっていた「奇跡の一本松」の修復作業を来週月曜日から行います。奇跡の一本松は震災2年前に復元を終える予定でしたが、市民から枝の角度が違うとの指摘があり、やり直しが決まっていた。修復作業は今年27日から来月末までの予定で、枝を切断したあと地上で調整を行い、来月3日までに再び取り付けます。その後献花台の設置や芝を張るなど周辺の整備を行い、7月上旬の完成式典を目指します。費用に充てる「一本松保存募金」は今年15日現在で1億2500万円を超え、目標に近づいています。(5/22 ニュースエコー)



陸前高田発・さんりく元気ラジオ

気仙川のシロウオ漁

今週は陸前高田災害FMの阿部裕美さんが、気仙川の春の風物詩の一つ「シロウオ漁」を、気仙川の川岸から中継で紹介してくれました。お吸い物に入れたりてんぷらにしたりすると美味しいシロウオですが、震災後は川の中の様子が変わり、3年ぶりの漁となった今年はかなり漁獲量が減っていて、伝統がなくなるのではとの心配もしているそうです。気仙川漁業組合の組合員の金野さんと佐々木さんは「何とか川にシロウオが戻って来て欲しい」と話していました。



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中
詳細はIBC公式サイトから <http://www.ibt.co.jp/>
IBC復興支援室事務局 019-623-3122